

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	市川市立塩焼小学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和4年度全国学力・学習状況調査結果より、文章の構成について問う設問において正答率が低かった。自分の考えを文章化できなかつたり構成に着目せず要約のみで回答したりする児童が多かったと考えられる。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○昨年度まで行ってきた言語活動を基調とし、少人数指導を活用して基礎・基本の定着を図ることで、より深い学びを実現できるだろう。個人が言語活動を行う時間や発表等のグループ活動時間に少人数指導を導入し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。

3. 具体的な実践

○教師が令和4年度全国学力・学習状況調査問題に取り組み、分析し、校内で共通理解を図った。
○4・5・6年生による3回の検証授業を実施。『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』における「課題を明確にする」と「思考の過程を振り返る」に重点を置き、指導した。
○学年に応じた文章全体の構成や書き表し方を身に付けるために、ミニ作文や日記、はがき新聞等に取り組んだ。

4. 成果

○『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』に沿った検証授業の実践により、導入を工夫し児童の目的意識や相手意識を明確にし、振り返りを通して自分に身に付いた力を自覚することができた。
○検証授業を参観し意見交換することで、教師の指導力向上に繋がった。
○通年でミニ作文や日記、はがき新聞等に取り組んだことで、学年に応じた書く力の基礎・基本の定着に繋がった。また、学年ごとの取組を全体で共有することで、次年度の指導に繋がり活用することができると考える。
○加配教員の活用により、特に「書くこと」の単元では授業内に個別に指導する時間が増え、質の向上に繋がった。

◆担当指導主事から（葛南教育事務所 指導主事 長門 亮）

○『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を授業づくりに役立てていた。
○全国学力・学習状況調査の結果だけでなく、調査問題や授業アイデア例を授業改善に活用していた。
○少人数指導教員と協力して指導することで、どの児童も言語活動に意欲的に参加することができた。
○身に付けさせたい資質・能力に適した言語活動を設定することを今後も研究していく必要がある。